

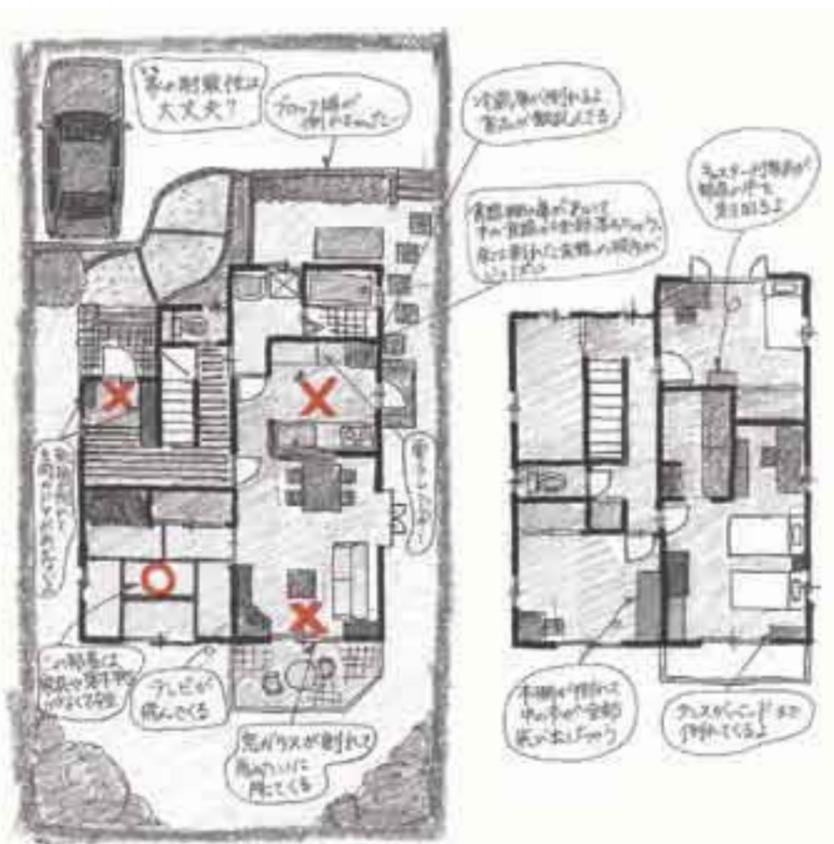
家庭内DIG

過去の災害では、多くの被災者が押し寄せた避難所での生活は、とても過酷です。
電気・ガス・水道が止まっている不自由な中でも、自宅で生活するためにどのような準備をしておけばいいのか、家庭内DIGを使って家族で話し合っておきましょう。

DIGとは…

「DIG」とは、大きな地図を囲みながら、参加者全員で災害時の対応策などを考える訓練のことで、Disaster Imagination Gameの頭文字を取って「DIG」と名付けられました。英語の動詞「dig」には、「掘り起こす、探究する、理解する」といった意味があります。「DIG」という名称には「防災意識を掘り起こそう」「地域を探求しよう」「災害を理解しよう」といったこの訓練の狙いが込められています。

地震が起きたとき、わが家のここが危険



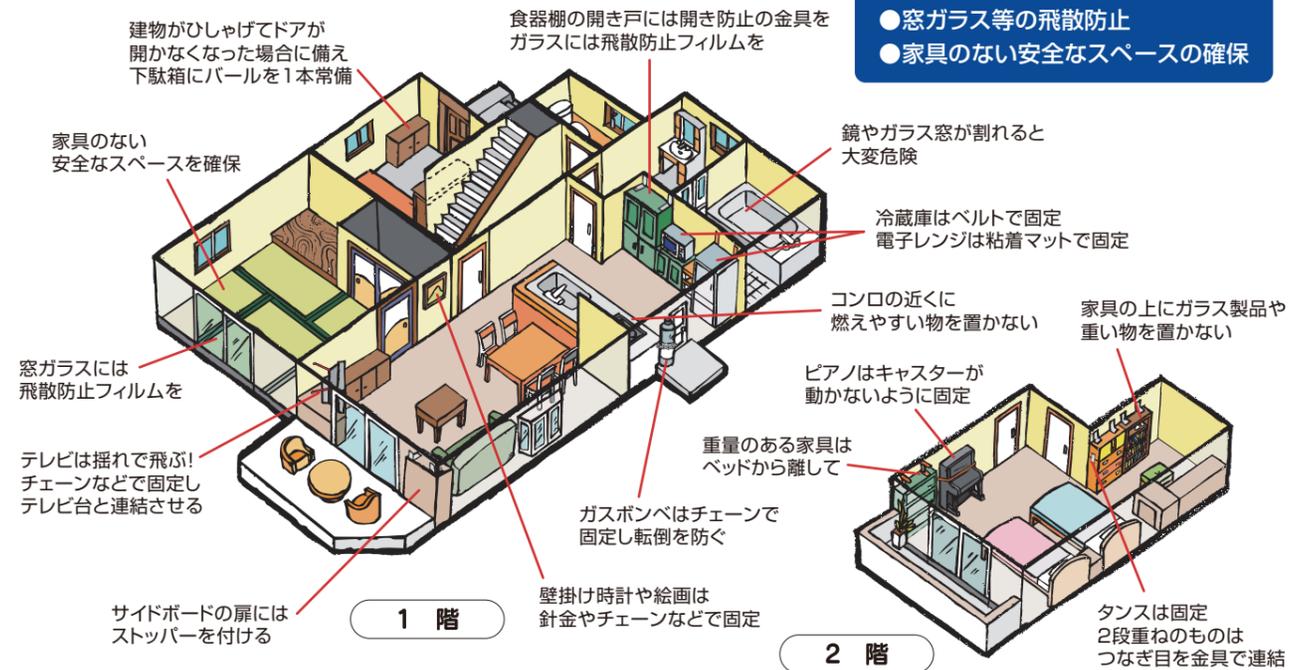
家の中や周辺の危険箇所

- リビング・ダイニング
 - テレビや棚などが転倒する。
 - 窓ガラスは割れ、掛時計は落ちて、ガラスの部分が割れて破片が散乱する。
- キッチン
 - 食器棚や冷蔵庫などが転倒して、中の物が散乱する。
- 寝室
 - タンスやドレッサーなどの家具が転倒する。
- 子供部屋
 - 学習机や本棚の中の物が飛び出し、キャスター付家具は走り回る。
- 屋外
 - 物置が転倒、ブロック塀は倒壊する。
 - 集合住宅のエレベーターは停止する。

地震が起きててもわが家で暮らすために

ポイント

- 家具類の転倒・落下防止
- 窓ガラス等の飛散防止
- 家具のない安全なスペースの確保



わが家の危険度チェック!

- ① 下の枠内に自宅の平面図を描く。
- ② 自宅の危険な場所をチェックする。
- ③ 電気のブレーカー、ガスの元栓、マイコンメーターの場所を確認する。
- ④ 普段過ごす部屋から屋外への避難経路を考える。
- ⑤ 地震発生後もわが家で生活するため、次のことを考えておく。
 - ・どの部屋で生活するか
 - ・食料、飲料水はどうするか
 - ・トイレの問題
 - ・寒さ対策